

○ 令和7年度第1回電子カルテ部会で案を示したモニター調査について、委員からの意見を踏まえ、きめ細かく患者・家族のニーズを捉えた実効性の高い施策展開につなげるため、以下のとおり実施する。

1 実施方法及び調査対象

web調査（委託）にて都民800名程度（年齢や属性にばらつきがでないようにする）

2 実施時期

令和7年11月以降 → 第2回電子カルテ部会にて確認後に実施

3 調査の仮説

- ・ 待ち時間や通院の手間など、患者・家族は不安を抱えていて、解消できる手段を望んでいるのでは
- ・ これまであまり受診経験がない人たちも、潜在的に不安を抱えているのでは

→ 不安・不満につながる要因やそれを解消する手段（DX）の具体的なイメージを持って回答できるよう、イメージ図（別添）を冒頭に添付

4 調査項目

- ・ 年齢区分・外来受診頻度・入院経験
- ・ 受診に当たり不便・不満に感じていること（患者及び家族視点）

→ 診療所（かかりつけや近隣など）及び病院（大きい病気・けがの治療や複数診療科の受診など）別

- ・ 医療DXに係る取組の**想定される効果別に期待度合い（期待する～ほとんど期待しない）を4段階で選択**

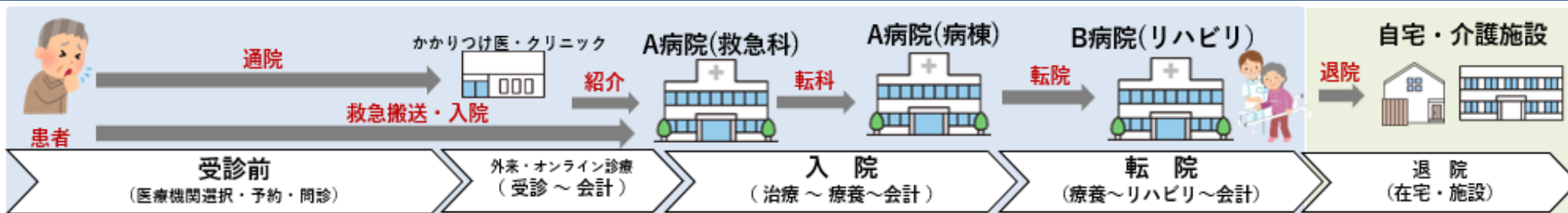
→ 患者メリットの周知不足とされた電子カルテのほか、待ち時間など患者満足度向上のための都の施策展開につながるDXの取組を選定。既に国で取り組んでいるマイナ保険証や電子処方箋等は含まない。

- ・ 医療DXに求める取組上位を選択（3項目まで）

5 その他

- ・ より詳細に患者ニーズを捉えられるよう、別途患者へのインタビューや病院における効果測定（導入前、導入後比較）を実施する。

医療DXによる患者メリット(イメージ)



電子カルテ



・人によりわかりやすさにばらつきのある手書きではなく、モニター上での記録や画像を通じたわかりやすい説明

電子カルテ共有サービス（国で導入準備中）など、情報共有に関する機能強化で得られるメリット

・他医療機関での診療、検査、投薬情報などを救急医療機関、かかりつけ医等や患者自身が共有することでの医療の質への安心感の向上

・診療情報提供書（紹介状）などの電子的な共有による待ち日数や来院の手間の削減

・過去の患者情報を医療機関同士が共有することで、複数回の説明の手間や身体的・経済的負担が大きい検査の重複、飲み合わせの悪い投薬、重複投薬の減



電子カルテとの連携や、アプリ等の導入により得られるメリット

web予約システム

- ・電話以外での予約方法の確保
- ・院内待ち時間短縮、混雑状況の把握
- ・受診忘れの防止（リマインド機能）



診察待順案内

- ・院内待ち時間短縮

文書（診断書や各種証明書等）のオンライン申請

- ・来院・郵送の手間削減

web問診システム（自宅等で問診）

- ・院内待ち時間短縮
- ・問診の利便性向上

オンライン診療

- ・通院の手間削減
- ・感染リスク低減

後払い会計システム

- ・院内待ち時間短縮
- ・支払い忘れ防止

処方箋送信サービス

- ・薬局での待ち時間の削減

オンライン面会

- ・対面が不可能な場合、遠方・疾病を問わず面会が可能（家族）
- ・感染リスク低減（家族）



PHRシステム（個人の医療情報を患者自身、医療機関等と共有できるシステム）

- ・医療の見える化
- ・継続的な健康管理